

様式2

令和6年度 学校評価の4点セット

1学期

日田市

立

東溪中

学校

2024年4月23日

令和6年度第1回改訂版

【学校の教育目標】 自ら考え判断し、協動的に行動する生徒の育成 ~ 自尊感情の醸成 ~

【育成を目指す資質・能力】 言語能力

重点目標	評価	達成指標	チーム	達成率	重点的取組	取組指標	実施率	【R5年度の成果・課題等】	
【生きて働く知識及び技能の習得】 教科等で必要な語句・表現の習得		<ul style="list-style-type: none"> 授業では根拠や理由を明確にして相手に伝わるように表現することができる生徒の肯定率 60%以上 R5実績 約50% 生徒は自己調整能力の向上を意識し、計画性をもって家庭学習等に取り組んでいる生徒の肯定率 60%以上 R5実績 約50% 	○木下山崎		学校	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、単元に1回以上、自分の考えを発表させる機会を確保し、その都度フィードバック（教師・生徒同士）の時間を確保する 各教科の単元構想の中に、習熟度に応じた宿題の位置づけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は、授業で単元に1回以上、生徒の自分の考えを発表する機会を活用し、その都度フィードバック（教師・生徒同士から）をする。 教師は、宿題の進捗状況を確認し、授業と一体化の宿題の在り方を探る 		生徒たちが、Qubenaを主体的に活用する工夫がない、現時点では強制している、善後策検討中。 ⇒生徒の自己調整力が向上すれば、Qubenaの有機活用が高まることが期待できる。 (R6年度提案事項)
					家庭	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立・子どもの自己調整能力の確立に向け、学校と協働する 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、宿題の進捗状況を学校と共有し、善後策を学校と協議する 		
					地域	<ul style="list-style-type: none"> 水曜塾の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域は、希望生徒に週1回学習支援をする 		効果あり、新入生にも強く勧める
【未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等の育成】 習得する力を活用し、自分の考えを言語化し発信する		<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト、定期考査等の記述問題の平均正答率6割以上の生徒が 50%以上 R5実績 約50% 日常の活動、授業等で自ら意見を言おうとする生徒が 50%以上 R5実績 約50% 	○衛藤豪 棟野		学校	<ul style="list-style-type: none"> 授業の「振り返り」で、「友だちの考えを受け止め、伝えあう力」を育成する授業の推進 人間関係づくりプログラムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に応じて、教員は生徒に、明確な視点を与え、複数回「振り返り」を書かせ可視化する（タブレット、ペーパー） 教員は、前者の「振り返り」を生徒に共有させ、さらに、生徒同士あるいは、教員がフィードバックする活動を単元に1回以上は行う 担任は、短学活で週1回以上共感力を高めるプログラムに取り組む 		昨年度「書かせる」ことが周知できていなかった テストの無回答にもつながっていると考える
					家庭	<ul style="list-style-type: none"> (再掲) 基本的な生活習慣の確立・子どもの自己調整能力の確立に向け、学校と協働する 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、テスト計画や反省等を子供と話し合い激励の言葉やアドバイスを記入する 		人間関係づくりプログラムは週1回必ず行うよう指示していた 「短学活研」も検討
					地域				
【学びを人生や社会に生かそうとする多様な意見や考えを受け止め、よりよく生きていくための意欲の涵養】		<ul style="list-style-type: none"> 以下の調査内容（学期スパン）肯定率（4段階評価において3以上）を 80%以上にする R5実績 約80% 【生徒調査】 ①授業で活躍できたり、充実したりしていると思うか ②自分の将来の夢や目標に向けて学校生活を送っているか ③友だちや集団のために役に立ちたいと思うか 【保護者調査】 ①子どもは、学校の生活が充実していると思うか 	○江藤孝司 光田		学校	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の3機能が担保された「生徒相互で創る授業」の積極的な推進 教師は、生徒同士に自己有用感を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の推進 ・生徒自らが創る授業を意識した活動を活用する ※小集団活動、フォーム等による即時フィードバック 生徒は、短学活等でお互いの自己有用感について週に1回以上意見交換を行う 		「小集団活動」の指導が、昨年度行き届いていなかった点である。 異論や反論を受け止めての共感力を目指したい
					家庭	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、学期に1回以上授業参観を行いアンケート等で授業評価をする 		アンケートが未完了
					地域	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を中心とした地域連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地域は、学期に1回以上授業参観（行事含む）を積極的に行い授業評価をする 運営協議会は年1回以上生徒が表現活動できる場を提供する 		協議会委員委には、4点セットと連動（重点目標）した評価アンケートを実施
【働き方改革の推進】 ライフワークバランスを目指した意識改革		<ul style="list-style-type: none"> 【主体的な働き方改革の推進】 年次有給休暇行使率の向上 計画年休取得率 50%以上 	○教頭 校長		学校	<ul style="list-style-type: none"> 計画年休の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の年間計画、期間等の見直しをしながら、1か月前の提案を推進する 		超勤の教諭は、ほぼ考えられないので、多くの分掌を抱えながらの年休行使を考えてはどうか？ 教員は、計画的に休むのが上手ではないと考えられる
					家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育の充実による学校支援体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等の利用やそれに伴う生活習慣の改善に努め、PTA主催の講演会等に参加する 		
					地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動と連携した学校支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 休日の生徒ボランティア活動への引率等の在り方について協議を進める 		振休は、完全行使100%